

VI 果 樹 作

なしの新品種「長寿」について

1 来 歴

長寿は昭和29年に神奈川県園芸試験場において、旭に君塚早生を交配して育成された極早生の品種である。昭和48年に長寿と命名され、昭和51年12月に種苗名称登録(旧法)された。当場では昭和51年から高接ぎを行って、品種の特性並びに地域適応性について検討してきたが、新水よりも収穫期の早い極早生種で、品質も良く栽培性も優れていることが明らかになり、昭和56年度に本県の推奨品種に決定された。

2 特性概要

樹勢は強い方である。枝の発生は多いが、えき花芽の着生は少ない。しかし、短果枝の着生は多いので、花芽の維持は容易である。

開花期は長十郎や豊水などよりやや遅く、幸水とはほぼ同時期である。1花そう当たりの花数は9～10花で、花粉も多く、新水、幸水、豊水、長十郎などの主要品種との間に交配親和性がある。

収穫期は農試では8月中～下旬で、新水より収穫盛期で約6日早いので、県南部では8月の盆前にはほとんど収穫でき、県央部でも8月の盆前から収穫可能である。また、GA処理による熟期促進効果が高いので、GA処理を行えば県央部でも8月の盆前にはほとんど収穫できる。

表－1 長寿の開花期及び収穫期

調 査 年 次	G A処理 の 有 無	開 花 期 月・日			収 穫 期 月・日		
		始	盛	終	始	盛	終
昭和54年	無	4.23	4.25	4.29	8.13	8.20	8.27
55	無	4.29	5.22	5.6	8.12	8.23	8.27
56	無	4.24	4.26	5.1	8.17	8.20	8.26
57	無	4.22	4.24	4.30	8.8	8.13	8.17
57	有	〃			8.3	8.6	8.17

注． GA処理は満開後33日に果梗部に塗布した。

果実は玉ぞろいも良く、1果平均重で300g近くになり極早生種としては大果である。果皮は中間色で成熟すれば黄褐色になり美しい。果形は扁円で、条溝を生じやすくやや乱れる。果肉は黄白色で、果心がやや大きい。肉質は軟かく果汁も多い。果実の糖度は11%前後で、糖度の高い品種ではないが、酸味が少ないのでかなり甘く感じられ食味は良い。収穫適熟果色は地色用カラーチャートで3.5～4であり、果実の日持ちは5～7日である。年によって裂果がわずかに発生したり、過熟果ではみつ症状や心ぐされなどの果肉障害が発生する。

収量は、他の品種に同一樹令のものがないので厳密にはいえないが、同じ頃に収穫される早

表-2 1果平均重及び果実品質

品種名	調査 年次	1果平均重 g	果実品質		
			糖度	硬度	酸度
長 寿	昭和54年	276	10.8	4.7	5.33
	55	280	10.6	5.4	4.99
	56	237	11.4	5.4	5.08
	平 均	264	10.9	5.2	5.13
新 水	昭和54年	261	13.4	4.7	4.60
	55	249	13.1	5.1	4.44
	56	258	13.5	5.7	4.60
	平 均	256	13.3	5.2	4.55

注． 糖度は％，硬度はポンド，酸度はpHである。

玉や新水より豊産性と考えられる。

葉，果実とも黒斑病には抵抗性で，黒星病にも長十郎より強いので病害防除は容易である。また，虫害も他の品種と同様の防除で問題はない。

表-3 収 量

品種名	調査 年次	樹 令 年	収 量 kg	
			1 樹当たり	果年計
長 寿	昭和54年	4	31.4	36.5
	55	5	42.9	79.4
	56	6	58.7	138.1
新 水	昭和45年	4	14.1	14.8
	46	5	21.9	36.7
	47	6	47.1	83.3

3 栽培上の留意事項

長寿はえき花芽の着生が少ないので，短果枝を主体とした栽培を行うことになる。短果枝の維持が容易なので側枝は幸水などより長く使用できるが，計画的に側枝の更新を行って，若い力のある側枝に着果させることが大切である。

果実肥大の良い品種で，特に若木のうちは大果になるが，着果過多では小果になり品種の特性が十分に発揮されない。商品性からみても平均300g程度の果実生産を目標にした着果管理が必要である。また，果形が乱れたり，変形果が出やすいので，人工受粉を励行するのが望ましい。

地色用カラーチャートで3.5～4のやや青味の残った時期が収穫適期であるが，過熟果にはみつ症状などの果肉障害が発生するので，適期収穫には特に注意が必要である。

長十郎に果面の汚れが発生するような6～7月が低温，多雨の年には，長寿にも果面の汚れが発生しやすいので，過度な薬剤散布や乾きにくい時の薬剤散布はさけるのが望ましい。

(担当者 果樹部 金子友昭)